



平成28年度第2期『人権に関わる相談担当者等スキルアップ講座』



開催日	10月13日(木)		12月15日(木)	
2 期	午前部 10:00～12:00	分野	障がい者の人権	子ども
		講座名	統合失調症って、どんな病気？私の場合。 ～あってよかった こんな支援～	子どもの人権 ～身近な大人にできること～
		講師	津市立美里中学校 学校図書館司書 岡田 彩(あや)	公益財団法人 反差別・人権研究所みえ 研究員 稲垣 満佐代(まさよ)
		内容・講師紹介など	<p>統合失調症の主な症状と実態からの時期に、どのような支援を受ければ、よりよく生きられるか、ということ、当事者の思い、目線を通してお話します。</p> <p>●講師紹介 統合失調症当事者 20歳で発症、現在34歳。 病気になってから、生き方を見つめ直し、自分にとって本当の生き方をスタートさせる。 今は山あいの小さな小・中学校で図書館司書として、9年目になりました。 子どもたちや先生方と楽しくのびのびお仕事させてもらっています。 NHKハートをつなごう 心の病シリーズ・ハートネットTV等出演。</p>	<p>※ 子どもをとりまく状況 【子どもの権利条約批准から22年】</p> <p>※ 学校現場で出会ってきた子どもたちの姿から学んだこと についてお話します。</p> <p>●講師紹介 小学校教諭として採用されて以来、伊賀市内で勤務。 2015年4月から研究員として勤務、現在に至る。</p>
午後部 13:30～15:30	分野	その他 (技法)	その他(情報社会)	
	講座名	相手に伝わる話し方	メディア社会を生きる力とメディア・リテラシー ～「問い」を持ってメディアと向き合うために～	
	講師	一般財団法人NHK放送研修センター 日本語センター・部長 合田 敏行(ごうだ としゆき)	NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所 所長 西村 寿子(ひさこ)	
	内容・講師紹介など	<p>相手に「伝えた」ではなく、「伝わる」ことをめざした話し方を解説。 必要な要素は、「声」の使い方。 言いたい事の「絞り込み」。 わかりやすい「組立」。 「相手を意識」した話し方。 適切な「態度・表情」。 納得してもらえる「具体性」。 こうした要素を身につける方法をお話します。</p> <p>●講師紹介 昭和33年生まれ 東京大学文学部卒国語学専攻 昭和55年アナウンサーとしてNHKに入局。 ひるどき日本列島、くらしの経済、実践はなしことば、などを担当。 平成26年からNHK放送研修センター日本語センターで、企業や自治体向けにコミュニケーション力向上の研修を実施している。</p>	<p>日頃、何気なく接しているテレビ、インターネット、新聞、雑誌、広告は人権や差別と関わって、ものの考え方や価値観をどのように提示しているのでしょうか。 メディア・リテラシーは、一見、漠然としたメディアを自分の手でつかまえて、クリティカル(多面的)に吟味するための学びです。 メディアが空気のように偏在しているこの社会で、メディアについて理解を深めることは自分らしく生きることにつながると思います。 講座では、参加型のワークショップを取り入れて、メディア・リテラシーの基本を学びたいと思います。</p> <p>●講師紹介 2013年3月まで(社)部落解放・人権研究所 編集販売部長として月刊誌『ヒューマンライツ』等の編集に携わる。 2014年4月から一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団に常務理事・事務局長として勤務。大阪大学人間科学部「人権教育論」非常勤講師。共著に鈴木みどり編『最新StudyGuideメディア・リテラシー入門編』(リベルタ出版、2013年)、おとなの学び研究会編『ことば・表現・差別 再考』(解放出版社、2015年)など。</p>	